

心理学・教育学委員会脳と意識分科会（第25期・第7回）
議事要旨

日時：2023（令和5）年2月15日（水）15：00～17：15

会場：オンライン会議（Zoom使用）

出席者：苧阪直行委員長、松井三枝副委員長、坂田省吾幹事、蘆田宏幹事、今水寛、苧阪満里子、大平英樹、柏野牧夫、川合伸幸、川畑秀明、斎藤智、坂上雅道、高橋英彦、村井俊哉、山口真美、渡部文子（16名）

議題

(1) 前回議事録確認

前回議事録を確認した。

(2) 本年度の反省

学術会議会員の松井委員・坂田委員より、政府による学術会議改革の方向と会員の対応について説明があり、苧阪直行委員長からの過去の経緯の説明を含めて情報交換を行なった。会員選考方法の変更が計画されており、次期会員選考も不明な点が残る。また、心理学分野の会員の多くが今期までの任期であり、次期会員の選考について注視していく。（心理学と教育学など）委員会の構成についても引き続き検討が必要であろう。

(3) 来年度に向けての分科会活動の検討

坂田委員より、学術会議における心理科学総合研究所設立の構想とそのベースとして本分科会の役割について説明され、委員間で議論された。脳と意識分科会の継続について、積極的な意見が寄せられた。分野を超えた連携や、他の分科会との交流も課題となる。また、脳と意識という基本テーマを超えて、心理学のあり方、技術による教育の変容、などさまざまな議論が織り込まれた。今後は、政府への提言という役割を踏まえつつ、幅広い情報交換と議論の場としても活用できるだろう。

(4) 次回分科会の日程

次回開催は未定。4月以降に今期中の開催を目指して調整したい。

(5) その他

なし